機関誌創刊に寄せて

早稲田大学 総長
奥島 孝康

三島校友会の皆様には、ご壮健でそれぞれの分野でご活躍のこととお慶び申し上げます。また今回、機関紙の発刊に際しまして、大学を代表して心よりお祝い申しあげます。

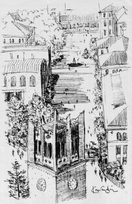
現在母校は創立一一九年を迎え、早稲田大学校友会は発足して一一六年目となり、傘下の団体も一〇五九を数える大規模な組織になりました。その中でも三島校友会は、いつの時代にも会員の皆様が一丸となって運営に力を尽してこられたことに、深く敬意と感謝の意を表します。同時に、新世紀を迎えた今、さらなる発展に向けて前進されることを期待申し上げます。

さて、二一世紀を迎え、本学は「志立大学」としての志を教育と研究において、これまで以上に明快に社会へ示し、共感を呼ばなければならないという使命感に燃えております。教旨に示されている建学の理念「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」――これらを、二〇〇七年の創立一二五周年には、たとえその一部なりとも実現させるべく、現在ソフト・ハード両面にわたる抜本的な改革を推進しております。

近年発足した独立大学院「アジア太平洋研究科」「国際情報通信研究科」「日本語教育研究科」、学生のための大学づくりをあらためて目標に掲げ、七月に完成した「新学生会館」や旧早稲田実業学校校舎を利用した「インキュベーター」、さらには全学的な教育改革の一環として四月に発足した「テーマカレッジ」などがその主な柱であります。

このように、早稲田大学では、創立一二五年を目指して、新しい歩みを始めております。引続き本学の今後の活躍に是非ともご期待いただき、さらなるご支援とご協力のほどを心からお願い申し上げます。

末筆ながら、三島校友会の益々のご発展と皆様のご健勝・ご活躍を祈念いたします。



稲門三島

Vol.1
2002

早稲田大学三島校友会誌

発行者：早稲田大学校友会静岡県支部三島校友会長 八木 傳
発行所：早稲田大学三島校友会稲門三島編集委員会
〒411-0943 静岡県駿東郡長泉町下土狩 103-7 三光商会内
TEL.0559-75-0731 FAX.0559-73-1188
印刷所：NAPO 株式会社

大隈精神を見つめ直そう

八木 傳

このたび、三島校友会のさらなる活性化と発展を目指し、機関誌「稲門三島」を発刊することになりました。皆様からの自由なご投稿をお待ちしております。

校友会の組織は年毎に拡大し、今大学に登録されている稲門会の数は既に一〇〇〇の大台を越えております。母体は地域、職域等様々ですが、そうした中に、全国の社会奉仕篤志家が集まり、平成七年に発足した「保護司稲門会」があります。これは、稲門の同志だからこそ結成できたと仲間内で自負しておりますが、正に早稲田ならではのユニークな組織です。

本年六月扶桑社から「教科書が教えない歴史人物＝福沢諭吉・大隈重信」という文庫本が出版されましたが、大隈老侯について執筆されたのが、前述の「保護司稲門会」の会長久保田庸四郎氏（昭和11年生れ文学部および政経学部卒）です。

偶々先頃、「保護司稲門会」の研修会があり、その課題のひとつが「学祖大隈重信について共に語る」だったのですが、冒頭久保田会長が私達にクイズを出されました。次の中で大隈侯の事績には○、そうでないものには×を、という問題です。

□早稲田大学を創立した。□同志社大学の創立を援助した。□日本女子大学の創立を援助した。□郵便制度を作った。□新橋～横浜間に鉄道を開通させた。□明治時代の財政を確立した。□学制を発布した。□貨幣制度を整備した。□会計検査院制度を創設した。□国家予算の公表制度を作った。□地租改正を提案した。□日英同盟を提唱した。□条約改正を進めた。さて、皆様の結果は？……実は、正解は全項目○でした。

私はというと、しかるべき立場にありながら、大隈侯についての認識不足を恥じ入り、大いに自省した次第です。

話は変り、週刊ダイヤモンドの調査による「二〇〇一年役に立つ大学ランキング」では、今年も一位が早稲田大学文系で、二位が同理系でした。矢張り、評価の背景にある校風の重みは無視できません。今や、大学経営は冬の時代といわれる中で、早稲田大学は、学生のための大学づくりに懸命の努力を続けると共に、早稲田大家族主義の旗のもと、何より校友の大学への帰属意識の一層の高揚に努めております。

創立一二五周年を間近に迎え、大学の「第二の建学」を目指す行動目標の中に「建学の精神を見直そう」があります。今こそ、学祖大隈重信の人物、業績および建学の精神をもう一度学習し、再評価すべき時であると考えます。

【三島校友会長・昭31教育卒】

投稿のページ

話勢多 WASEDA

よしなしごと

薮原　健

夏草や　刀は折れぬ　矢は盡きぬ

今年の夏の盛りに第一高等学院昭和二一年入学以来の友人を失った時の句である。彼は理工学部土木工学科を卒業し東京の電鉄会社に入り、渋谷の地下街とか伊東・下田間の鉄道建設やらで活躍し、本社の役員から系列のゼネコンの副社長をしていたが、バブル崩壊で人、金の問題で随分苦労したようで、三年程前円満退任したが、間もなく病を得た。正に斃れて後已むの生涯であった。

私も繊維会社であるが、先輩または同僚で然るべき役職で活躍した人々が、七〇歳前後で鬼籍に入ったものも多く、身辺つとに淋しさを覚える昨今である。

私どもの時代は昭和二十年代後半から昭和の終り迄位が活躍の盛期であり、それなりに苦しい時期でもあったが、兎も角も右肩上りの時代で、明日を信じて仕事が出来たと云えよう。

平成に入り、バブル崩壊後の世の中は本当に苦しい時代になったと思う。偉い評論家の皆さんの議論は百出すれど、政治家も色々変るけれど、一向に事態は良くならない。まして、最近のアメリカの同じ多発テロ以降の世界の情勢は一体どうなって行くのであろうか。

人間の理性の開放による科学技術の進展は著しく、人の生活の利便性の向上は見るべきものがあり、将来もこの面では楽しみでもあるが、もう一方の情（パトス）の世界は殆ど千年一日の如く余り進歩したとは云えず、現在でも宗教間、民族・部族間、地域間などの紛争は絶えず、国際連合も為す術なしの状況が続いている。一つの体制に不満を持つ人間をなくすことは不可能で、必ず少数とは云え存在するものであろうから、その人達の悪意とか憎悪が、今度のように科学技術の進歩のお陰で一国の、否世界の根幹を揺るがすようになり得るとは本当に皮肉なものである。

私共老人は、世界の良識が勝ち、近い将来、落着いた世の中になることを一向祈るばかりである。これからの二一世紀がどんな時代になるか解らないが、中心となって活躍されるであろう若い同志の諸君に、倍増の研鑚と努力をお願いして、皆さんの幸運と成功を心から祈念する次第である。【昭26理工卒】

所沢キャンパスのシンボル「人とペガサス」

ロマネ・コンティの畑で

中川　和郎

一昔も前のことである。大学時代から親しくしている友人と二人で、フランスに行こうという話になった。ワインに詳しい男で、彼の意見を尊重し、生産地を中心にワインを味わい飲み廻る旅にした。パリ、マルセイユ、リヨン、ディジョンその他、一五日程のスケジュールを組んだ。

運よく私の古くからの知人や、関係者が居たので、大雑把な予定表を送り、ホテルその他一切をお任せした。そしてディジョンのホテルで、車を持っている女流画家と合流し、三泊四日、近辺のぶどう畑やワインの蔵元（?）を案内してもらうことにした。

九月中旬のことで、ディジョンでは丁度収穫祭だったらしく、ホテルに着く前に人出に押され立寄った市役所の前の広場では大樽を据え、大勢の若い女性達が古風な衣装姿でぶどうを踏み続けていた。よく見ると見物人の中に、これ又幾人かの甲冑姿の男達もまじっている。そして搾りたてらしいワインが、グラス一杯確か百円程で売られていた。彼と二人で二・三杯飲んでみた。渋い味だった。

ホテルは古い建物で、待っていた彼女の話によると、ディジョンにはホテルが少なく、祭のためか混んでいるが、ここでは一番由緒のあるホテルだということだった。名前は忘れた。唯、手渡された部屋の鍵の大きさと重さに、歴史を感じさせられたことは確かだ。

翌日、彼女の車でかの有名なロマネ・コンティのぶどう畑があるという、ブルゴーニュ地方へ向った。よく晴れた暑い日だった。

多少見知っていたが、膝ぐらいしかない、小さなぶどうの木が、白色の細長い小石で根元をおおわれ、見渡す限りゆるやかな丘から平地へと続いている。街道沿いの家も僅かで、処どころに農道が入り組んで、やや大きな石を背丈程に積み上げて、各々の畑を囲っている。そしてその入口に門柱を建て、古びた木札などに名前らしきものが記されている。その広い畑の中に、ロマネ・コンティの畑があるという。旅行者らしい人達の車が、二・三台停っていて人影が見えるのだが、遠すぎて声をかける訳にもいかない。農道の脇に車を停め、三人三様に別れて探すことにした。

いいかげん疲れ果てて戻ろうと細い農道を曲り、ふと見ると「Romanée Conti」と記された小さな門柱が目の前にあるではないか。

「おーい、ここだ、ここだ」見えかくれしていた二人に向って私は大声をあげた。付近に人はいない。恐る恐る門柱をくぐり、ふと足元を見ると、つまみ食いでもしたのか、まだ青いぶどうの食べかすが散らばっている。畑全体もその囲いで見る限り、余り広くもなく、隣接している畑よりも小さく感じた。後ろめたさを覚えながら、足元の小さな青い実を二つ三つ口にしてみた。特別な感慨はなかった。唯、ロマネ・コンティの素がこれかと思っただけだ。

その直後、ふと私は尿意をもよおし、彼女にかくれるように囲いの奥の片隅に行き、勢いよく放尿した。そして一株のぶどうの木の脇の白い石を二・三個拾いあげて車に戻った。

「一九九三年のロマネ・コンティは俺の肥しが利いているぜ！」そんな冗談を言いながら。もう二度と来ることはないだろう一面のぶどう畑を私は何度も振り返って見た。ひそかな羞恥を覚えながら―。

持ち帰った小石は、今も尚書棚の片隅においてあるが、本物のロマネ・コンティには、未だに私はお目にかかってはいない。【昭31文卒】

西早稲田キャンパス14号館・教育研究棟

私の早稲田

鹿戸　周

去る日、母校のホームカミングデイにクラス仲間八人声をかけ合って出席、秋の一日を共にした。在学中も卒業後も余り早稲田には熱心でなかった自分も、記念式最後の校歌斉唱の段には、半世紀前から今日に至るを思い、改め万無量の感を禁じえなかった。

遠き昔、長く重篤の病床に伏し、療養を余儀なくされた父の寝姿を横目に、様々な家庭事情のネックなど省みず、敢然と早稲田の門を叩いた自分を思う。

ペーパーテストに難なく合格、日を置き面接試問の際、担当教授から開口一番「君はどうして早稲田に来たのかネ」と一発かまされた。当時自分は県下一、二の進学校でそれなりのクラスに居り、テスト結果と内申書から、早稲田受験は余程物好きかと、意外の感を持たれたようだった。事実、自分は小学校以来決してがり勉タイプの点取り虫ではなかったが、割合良く出来た方だった。そこで自分は答えた。「尾崎士郎の人生劇場を読み、早稲田に憧れて来ました」と。しかし、実は、人生劇場は一〇頁位が精々で、映画も歌も知らなかった。教授の方は、まさしく吾意を得たりとばかり苦笑された。

その時、自分の胸ポケットには父から託った父の肩書入りの名刺が入っていて、面接の時「父からもよろしく」とのことでしたと、それを出す手筈は忘れてはいなかったが、とても恥かしくてそんなことなど出来なかった。しかし今、それを懐かしく思い出すのは、当時父が息子に示し得た精一杯の愛情のメッセージではなかったかと。田舎知名人のそんな情実が決して通用する筈はないだろうが、方向違いの誇りと自信と考えるべきなのか。

ところでここ数年、特に妙に懐かしく「早稲田」を感じる。早稲田に関する人の話題、ニュース等を目にし、耳に触れる度に、また、有・無名に拘らず、先輩、後輩の活躍、努力、奮闘に格別の思いを抱くことが多い。そして、人生を旅に例えた古人の思いを強く感じる。芭蕉、牧水等枚挙に暇はない。↘

↗古希を前に今改めて思う。十八年間両親の膝下で暮した日々、早稲田で多くの友人に恵まれた学業の年月。会社人間としての長く、転勤・旅回りの人生、そして、当地三島を終の栖としての日月を。

大隈候の人生一二五年説にあやかり得ぬ迄も、終着駅を目指し、旅の終りを力の限り生き抜こうと決心している。

タンゴとの出会い

前島 芳彦【昭32商卒】

浪人生活は、私の人生観を涵養する機会であった。アルコール、タンゴ、マージャンとの遭遇の時期であり、アリストテレス・ニコマコス倫理哲学や天文学の無限と接したのもこの頃であった。

母の強い勧めにより、当初の志望校を断念し、早稲田大学理工学部に入学以降は、文系の人達とも交際を深め、知識を広めるため、先ず「ラテンアメリカ協会」に入部した。同会はタンゴ、トロピカル、スペイン語、事情研究の諸部門に分かれていた。

当時、東芝エンジェルレコードもタンゴ普及に熱心で、ETPクラブの結成もその表れであり、弦巻町の小野正孝氏のお宅を同志と訪問しては、ガリガリ音のするSP盤の名曲の数々を鑑賞し、意見の交換をしては友好を深めた。

私がタンゴに急接近したきっかけは、当時タンゴの解説者高橋忠雄氏と親交の深かった、三島プラザホテル近くにあった富士書店オーナーの小川さんのお陰である。帰省するたびに同店員であった同窓の故鈴木実氏と共に秘蔵のレコードを聞かせて頂き愛着を深めた。特に嵐のようなバンドネオンとすすり泣くヴァイオリンの独特なリズムを兼ね備えたアルゼンチンタンゴに限りなく魅せられ、中でもカルロス・ディ・サルリ演奏の名曲「エル・アマネセール」は最高だった。

やがて、協会の中で特にタンゴを愛する有志で「早稲田タンゴ同好会」を独立結成し、毎月定期的にコンサートを各所で精力的に行うようになった。その頃、タンゴ歌手として修行中の菅原洋一氏が我がアパートに泊り、発声練習をしてからコンサートに出演した思い出もある。

昭和三二年には「大学タンゴ連盟」を結成すべく他大学のクラブに奔走して働きかけ、また、この世界では第一人者の早川真平氏、藤沢嵐子氏、坂本政一氏宅にも伺い、理解を求めたことも発足に大きく寄与したと思う。その努力が実を結び、同年一一月には七大学（後に八大学）連盟が発足し、結成記念コンサートの開催に至った。初代会長を努めた私は、会場の設定、楽団・歌手・解説者の依頼、各所への集会の届け出で、交通機関の手配、税務処理、プログラム広告の募集等、学業とかけ離れた貴重な実務体験をすることができ、つくづく間口の広い早稲田に行って良かったと回顧している。

その経験を活かし、その後も演奏会の開催やタンゴ喫茶で秘蔵の名曲を披露して解説するなど、学生時代はタンゴと少々のマージャンで終始した。

最近では、タンゴも音楽だけでなく、見せるダンスも人気を博するようになり、三年前に家族で念願のブエノスアイレスを訪れ、本場のタンゴの味を夜更けまで堪能したが、その時のマエストロ、ホセ・コランジェロが昨年六月来静した際には、グランシップで家族ともども再び「[illegible]」を

新たにした。

今では、音楽と言えばカラオケも卒業し、小唄と吉水のご詠歌の指導を受けている今日この頃です。【昭34理工卒】

私の愛するゴルフ

益原 章生

新春一発謎かけをプレゼントします。

「ゴルフとかけてなんと解く…更年期を迎えた女性と解く、その心は、上がってなんぼ」。

これが私の愛するゴルフの真髄です。豪快な300ヤードのナイスショットもわずか30センチのパットも全く同じワンストローク。

ああ、それなのにそれなのに、人は皆飛ばすことばかりに夢中になり、最も大切なアプローチ、パットの練習を疎かにする。だからこそ、私の様に飛ばない人間でも「上がってなんぼ」でチャンピオンになれるのです。

三〇数年前、一目惚れして買ったパターは、以来浮気一つせずこれ一本だけで、数々のメークドラマを演出し、多くの勝利に貢献してくれました。正にパターこそ我が生命です。

私は五五才になって資格を得てから毎年、東名カントリークラブのシニア選手権に挑戦し続けてきましたが、ついに、苦節八年、七転び八起きの末やっと念願のビッグタイトルを獲得という大きな夢が叶いました。昨年は更に、三島スプリングスカントリークラブのシニア選手権にも優勝し、二重の喜びに浸りました。

昔の人は良いことを言いました。「失敗は成功のもと」。全くその通りです。私は更に一言付け加えたい。「せいこうは妊娠のもと」と。つまり判り易く言えば「やれば出来る」と言う事です。この言葉こそ私の座右の銘です。

あのシドニーオリンピック女子マラソンで感動的な優勝し、更にベルリンマラソンで世界記録を出した高橋尚子さん。ゴルフ発祥の地英国で、四九歳にして四番目の子供を作ったブレア首相はテロ対策、世界平和のために精力的に東奔西走しています。今をときめくこのお二人は、実は私と同じ五月六日生れです。素晴らしい星の下に生れ、夫々の世界でやれば出来ることを証明してくれました。本当に嬉しいことです。

今年も、不況なにするものぞ。皆様と共に目標に向って、仕事もゴルフも女性も愛し、燦燦と輝く盛年の日々を創造して行きたいと念じております。【昭36政経卒】

安部球場跡に建てられた「総合学術情報センター」

2001年7月に竣工した「新学生会館」

IT時代雑感

榎本 昭雄

本格的にパソコンを使ってワープロやメールを始めてからかれこれ一〇年になる。仕事の上で使うように（使わざるを得ないように）なったからである。手書きの文書が電子的なデータになったことで、大変便利になり、今はそれらが無くてはならないツールや仕組になっていることは間違いない。

しかし、効率良く必要な情報がタイムリーに活かされているかという疑問がない訳ではない。今はインターネット時代となり、外部と行交う情報量はそれまでの比ではない。そして「デジタルデバイド」と言われ、これを活用できる人とできない人の差別化が取り沙汰される時代になってきた。

しかし、ここで重要なことは、情報を正しく処理し、効果的に活用するためには、個人や組織が十分に心してかからなければならないということだ。パソコンに向って、情報をただ集めたりばら撒いたりするだけで仕事をしているように錯覚しているケースもあり勝ちなことだ。また、当然技術が全てを解決してくれる訳ではなく、そこに発生する課題を思索するのは私達自身である。機械は人間関係や心の問題に関してはまず無力なことを知るべきだ。

「日本文化への回帰」という言葉を耳にするようになってきた。その潮流が底深く、しかも確実な流れになっているようだ。二一世紀の幕開けに際して、私達は何がしかの期待と夢を感じていた。しかし今、政治、経済、社会その他あらゆる面で私達はストレスを感じているが、二一世紀に来るべきは、自然との調和であり、人と人の触れ合いといった癒しの時代が望まれているように思う。

私は、戦中戦後の辛いながらも今考えれば懐かしい時代を過してきたので、今この時代に何か役に立てるのではないか、成長の時代しか知らない若い人は困惑しているのではないか、彼等が耐えぬいて癒しの時代を作ることができるのだろうか。そんなことを考えつつ、森田さんの「中次郎映画館」や小西さんの「三島茶碗」の活動が羨ましく感じる今日この頃です。【昭40理工卒】

2002年度総会

■日時■二〇〇二年二月二日（土）
受付開始・午後二時三十分

■場所■田代パレス（JR三島駅前）

■講演会■午後三時三十分より
演題「食養について」
講師　加藤太郎氏（詩人・元島田市長・昭31文卒）

■懇親会■午後五時より

2001年の行事

■二〇〇一年度総会■新年会を兼ねた通常総会が二月三日（土）田代パレスで開催され、午後三時より総会、三時三十分より松原信也氏（NECシステムULSI開発本部・昭53理工・昭59院理工学研究科卒）を講師として、「脳と心・科学最新の話題」をテーマに講演会が行われ、会内外から多数の参加者を集めた。引続き開かれた懇親会は、県東部および沼津校友会からゲストを招き、盛大に開催された。

■静岡県大会が浜松で開催■二〇〇一年校友会静岡県支部大会が、八月一一日に遠州稲門会の主管で、ホテルコンコルド浜松で開催され、本会から八木会長以下五名が参加、恒例の総長との懇談会、支部総会に引続き、ジャーナリスト田原総一朗氏、奥島総長の講演等の後懇親会が催され、応援部OB倶楽部等による盛沢山のプログラムが披露された。

■三田会合同懇親会■三島地区の稲門・三田会合同懇親会が九月一日田代パレスで行われ、両会から約五十名が参加して杯を酌み交し大いに親睦を深め、最後に両校校歌とエールを交換し、盛会裏に会を閉じた。

■伊豆の晩秋を惜しむ会■一一月二五日、本会顧問の足立光弘さん（昭33商卒）の発案で、本会の有志を募り、足立さんの地元湯ヶ島の「落合楼」に一泊して名湯、名酒と名妓（？）を愛でながら往く秋の一夜を惜しんだ。

校友会メンバー情報

■波多野諭さん逝去■本会顧問で県東部校友会長の波多野諭さんが二〇〇一年一月二九日に逝去された。

波多野さんは昭和二四年に法学部を卒業後教育界に進まれ、熱海多賀中、三島北中、南中他の教諭を勤めるかたわら、少年野球の振興に貢献され、一方、本会会長、東部校友会長などを歴任された。

■商議員に八木会長■大学商議員であった波多野諭さんの死去に伴い、その後任者の選定を、県東部校友会役員会に於て三島校友会に一任され、その後開かれた三島校友会幹事会で八木伝さん（三島校友会長・昭31教育卒）が選出された。

■代議員は河辺副会長■校友会代議員であった八木会長が商議員に就任のため代議員を退き、幹事会で、後任に河辺本会副会長（昭35理工卒）を選出した。

125周年記念事業の
シンボルマスコット
WASEDA BEAR

大学からお知らせ

■早稲田カード入会のご案内■既に発行枚数が六万枚を超えている校友のためのこのカードは、大学校友会が、大手クレジット会社一〇社と提携して、通常のカードと同様に利用されるたびに、提携手数料がカード会社より還元され、「早稲田カード奨学金」として毎年一〇〇名を超える数の学生に、三〇～三五万円の奨学金が給付されています。昨年度実績では約六千六百万円、累計で五億円以上となり、在学生に大変喜ばれております。

校友の負担なしに、クレジット利用をするだけで母校に貢献することになるこのシステムは、お手持ちのクレジットカードを、引続き早稲田カードとしてご利用頂く手続だけで会員になることが出来ます。会員になると、大学校友会費（年額五千円）が自動振込になり、特典としては、ほぼ毎月発行される校友会誌「早稲田学報」が自宅に送付され、早明ラグビーや六大学野球早慶戦のチケットが抽選でゲットできる他、大学図書館もカードでフリーパス、校友企業の協力によって全国のホテル、旅館、飲食店などの優待割引や予約サービスも受けられます。

お問合せは、大学校友課（℡03・3202・8040）または本会幹事まで。

■ホームカミングデーに参加しよう■大学創立記念日（毎年一〇月二一日）前後の日曜日に、卒業二五年と五〇年の校友を母校が招待するイベントが、かってのホームカミングデーだったのですが、現在ではこれに卒業三五年と四五年も加わる様になっております。この日は、キャンパスが一日卒業生に開放されるので、夫婦、子供連れで、学生時代を家族と共に懐かしむ光景も多く見られます。

二〇〇二年度は、昭和二八、三三、四三、五三年卒業の校友が招待されますが、対象者は校友会で把握している名簿によりますので、これに洩れていると招待状は発送されません。心当りの方は大学ホームカミングデー係（℡03・3202・8984まで各自お問合せ下さい。

10月に発行された「大隈講堂」記念切手

125周年記念事業募金

■大学創立一二五年記念事業■既に校友の皆様はご周知のことですが、大学は2007年に迎える創立一二五周年を目標に「グローカル・ユニバーシティ・コンセプト」として、「二一世紀へ挑戦する開かれた大学」を目指し、教育・研究体制の飛躍的発展を構想し、その具体化を進めております。

この目的の達成のために、大学は校友の皆様にも広く募金のご協力をお願いして参りましたが、今日の経済情勢の中で、今一つその成果が伸び悩んでおります。

このような状況の中で、既にご援助を頂いている会員諸兄姉も含め、改めてご援助を賜りたくお願い申し上げる次第です。

募金については、大学記念事業募金推進室または本会幹事までお尋ね下さい。

会員の職場紹介

中国料理「銀閣」
総合結婚式場 田代パレス・レストラン タシログリル・日本料亭 桜

有限会社 田代グリル
代表取締役 田代 敬一
（昭41商卒）

〒411-0036 三島市一番町15-19
TEL. 0559-75-0457 FAX. 0559-75-2478
E-Mail: tashiro-g-@thn.ne.jp

事務局便り

■年会費納入のお願い■本会の年会費を同封の振込用紙でご送金下さるようお願い申し上げます。また、総会にご出席の場合は、会場にて納入も可能です。

- ・年会費　五〇〇〇円
- ・振込先　静岡銀行中島支店
- ・口　座　普通０４５０４３１
- ・宛　先　早稲田大学三島校友会代表八木伝

三島校友会役員

・会長＝八木 傳（昭31教育）・副会長＝河辺和年（昭35理工）・益原草生（昭36政経）・顧問＝中川和郎（昭31文）・足立光弘（昭33商）・相談役＝戸田 馨（昭15法）・遠藤魁城（昭15専商）・萩原 健（昭26理工）・幹事長＝田口義昌（昭42政経）・幹事＝味田 豊（昭37法）・会計幹事＝森田眞覧（昭40商研）・幹事＝榎本昭雄（昭40理工）・田代敬一（昭41商）・小西政司（昭42政経）・事務局長＝井出雅光（昭47理工）・事務局＝米山路久（昭48理工）・事務局次長＝水口公基（昭51法）

編集後記

会報、会誌を出している地域稲門会を見るにつけ、わが校友会もどうだろうと、口にしたのが運の尽き、それをやらされる羽目になったが、幸い当会員は多士済々で、皆さんそれぞれ興味深い話題を原稿に託して寄せられたので、第一回はそれを独断と偏見で編集した次第。これからも面白い情報を是非ご寄稿下さい。

■稲門三島編集委員会■委員長＝河辺和年（昭35理工）　委員＝森田眞覧（昭40商研）・小西政司（昭42商）・田口義昌（昭42政経）・井出雅光（昭47理工）